

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年7月17日

予報期間：7月19日～8月18日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

北日本は、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。東・西日本は、期間のはじめは気温がかなり高くなるでしょう。沖縄・奄美は、期間の前半は気温がかなり低くなる見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

東・西日本では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

全般1か月予報

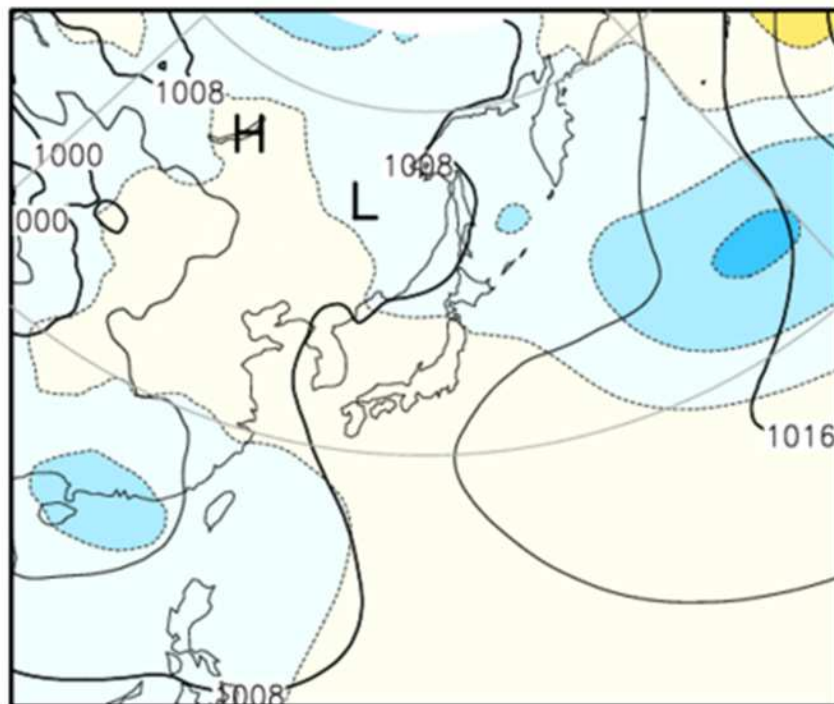
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	30:40:30 40:30:30	20:30:50 10:40:50	
東日本	日本海側 太平洋側	10:30:60	40:40:20 40:40:20	10:40:50 20:30:50	
西日本	日本海側 太平洋側	10:30:60	40:40:20 40:30:30	20:30:50 20:30:50	
沖縄・奄美		40:40:20	20:30:50	50:30:20	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	10:10:80	10:20:70	10:30:60
東日本	10:10:80	20:30:50	10:30:60
西日本	10:20:70	20:40:40	10:30:60
沖縄・奄美	60:30:10	40:40:20	30:30:40

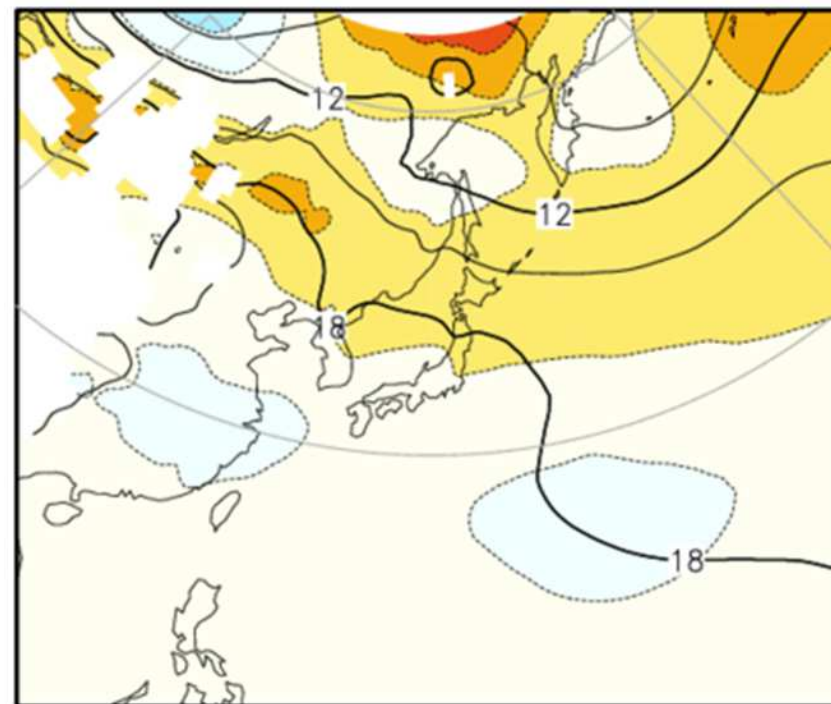
全般予報のポイント

- 向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、北・東・西日本では高いでしょう。特に、北日本は、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。東・西日本は、期間のはじめは気温がかなり高くなるでしょう。
- 太平洋高気圧に覆われやすい時期があるため、向こう1か月の日照時間は、北・東・西日本では多いでしょう。向こう1か月の降水量は、東日本と西日本日本海側では平年並か少ないでしょう。
- 沖縄・奄美では、熱帯じょう乱や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の気温は平年並か低く、降水量は多く、日照時間は少ないでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり低くなる見込みです。

海面気圧(1か月)



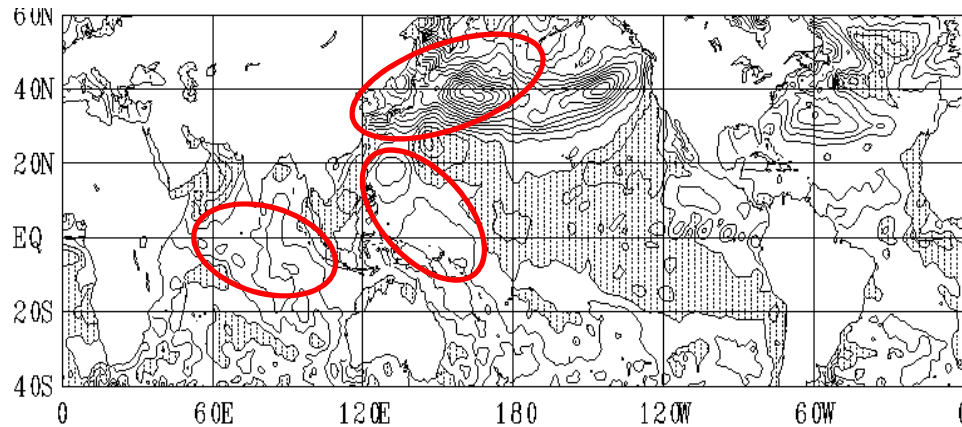
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の海面気圧(左図)は、本州付近は平年より高く、北・東・西日本は太平洋高気圧に覆われやすい時期があるでしょう。一方、東シナ海付近では気圧が平年より低く予測され、沖縄・奄美では熱帯じょう乱や湿った空気の影響を受けやすい時期があるでしょう。

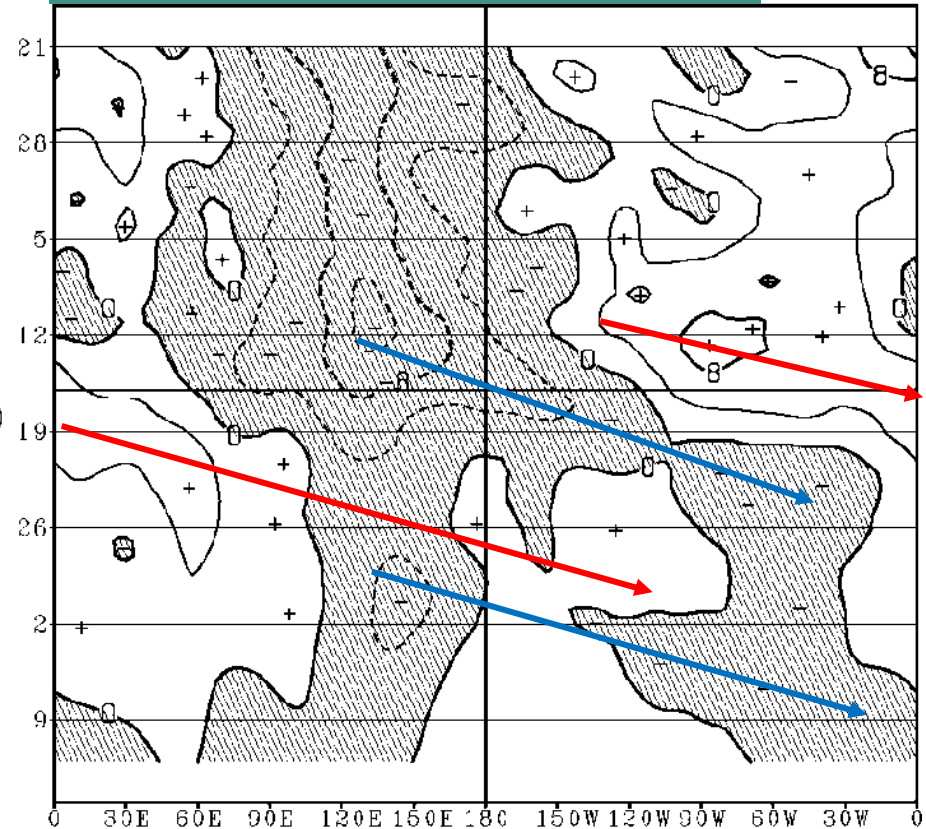
上空約1500mの気温(右図)は、北日本を中心に、平年より高いと予測されています。

SST偏差



熱帯域では、インド洋、太平洋西部で正偏差。また、日本海から北太平洋で広く正偏差。

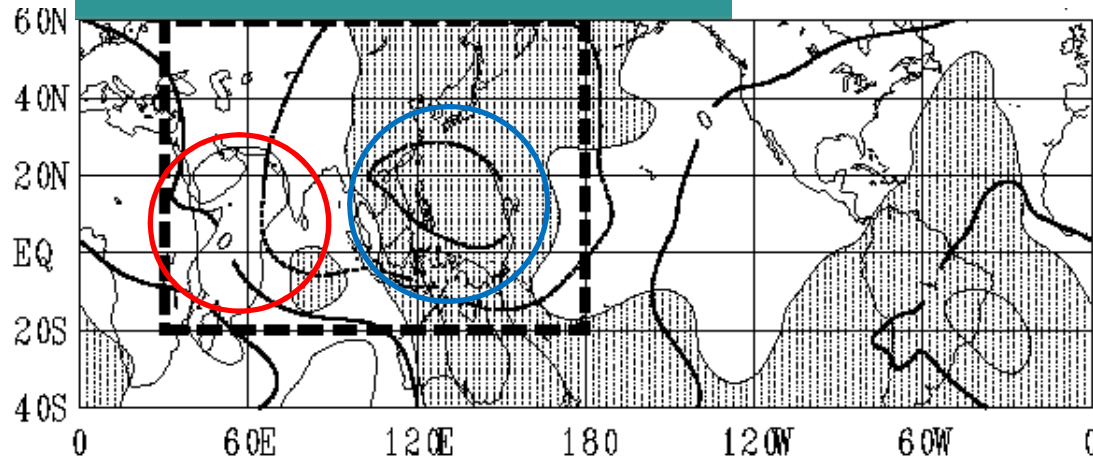
200hPa速度ポテンシャル偏差



1週目にかけてと2～3週目に、発散偏差域(対流活発域)がインドネシア付近から大西洋へ東進する。また、2週目にかけて、収束偏差域(対流不活発域)がインド洋から太平洋へ東進する。インドネシア付近は対流活発が続くが、偏差は小さい。

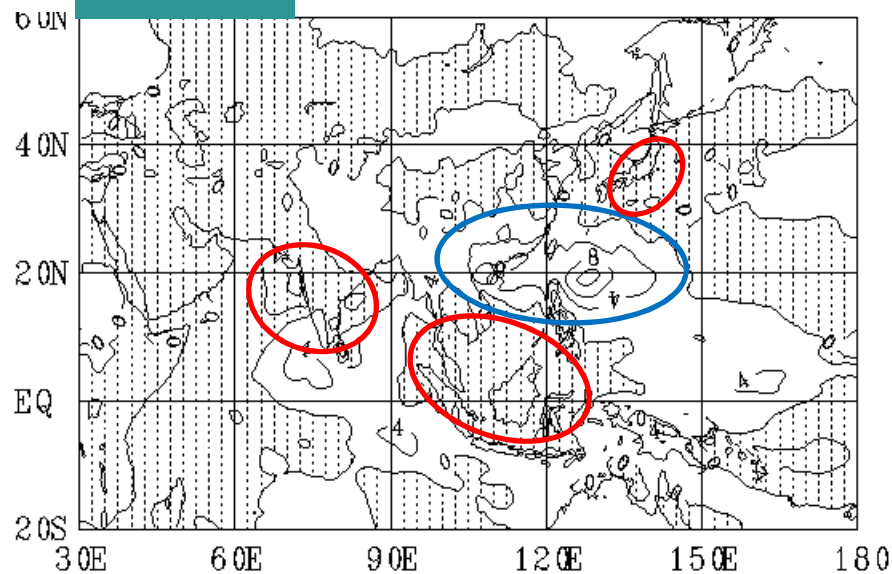
予報資料の解釈 1か月(7/19~8/15)

200hPa速度ポテンシャル



フィリピン付近で上層発散偏差。一方、インド洋西部で上層収束偏差。

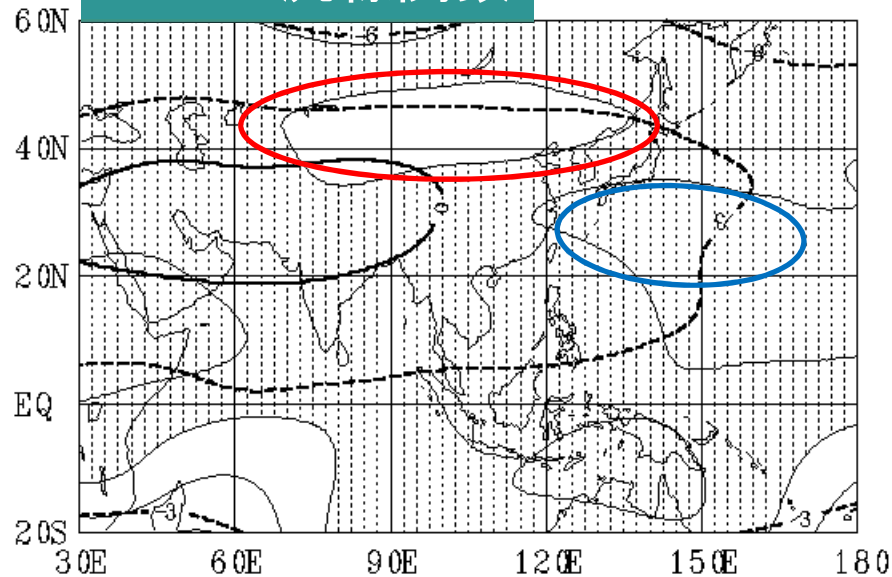
降水量



華南付近からフィリピンの東の北緯20度帯で多雨偏差。インド付近と南シナ海付近は少雨偏差。本州付近も少雨偏差。

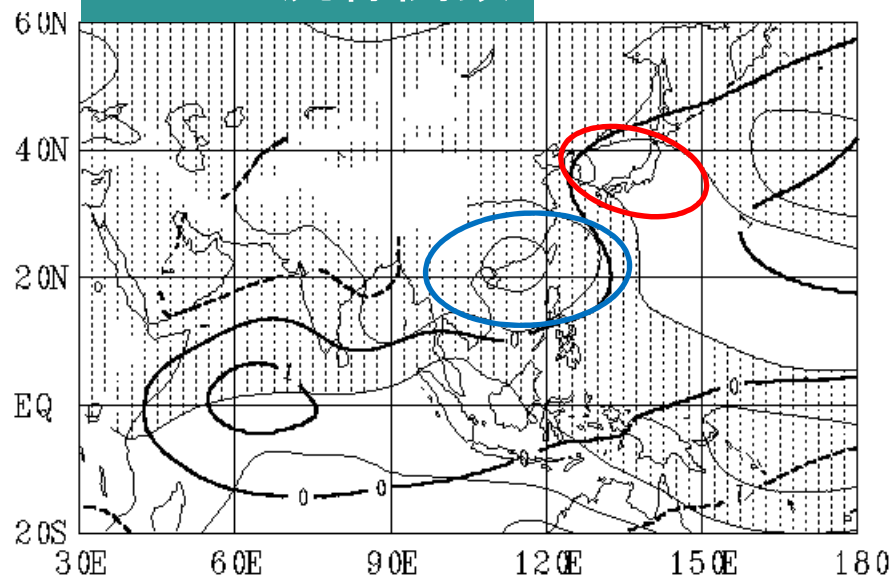
予報資料の解釈 1か月(7/19~8/15)

200hPa流線関数



ユーラシア大陸の中緯度帯で高気圧性循環偏差。日本の南で低気圧性循環偏差。対応して、亜熱帯ジェット気流はアジアから日本付近で北偏して流れる。

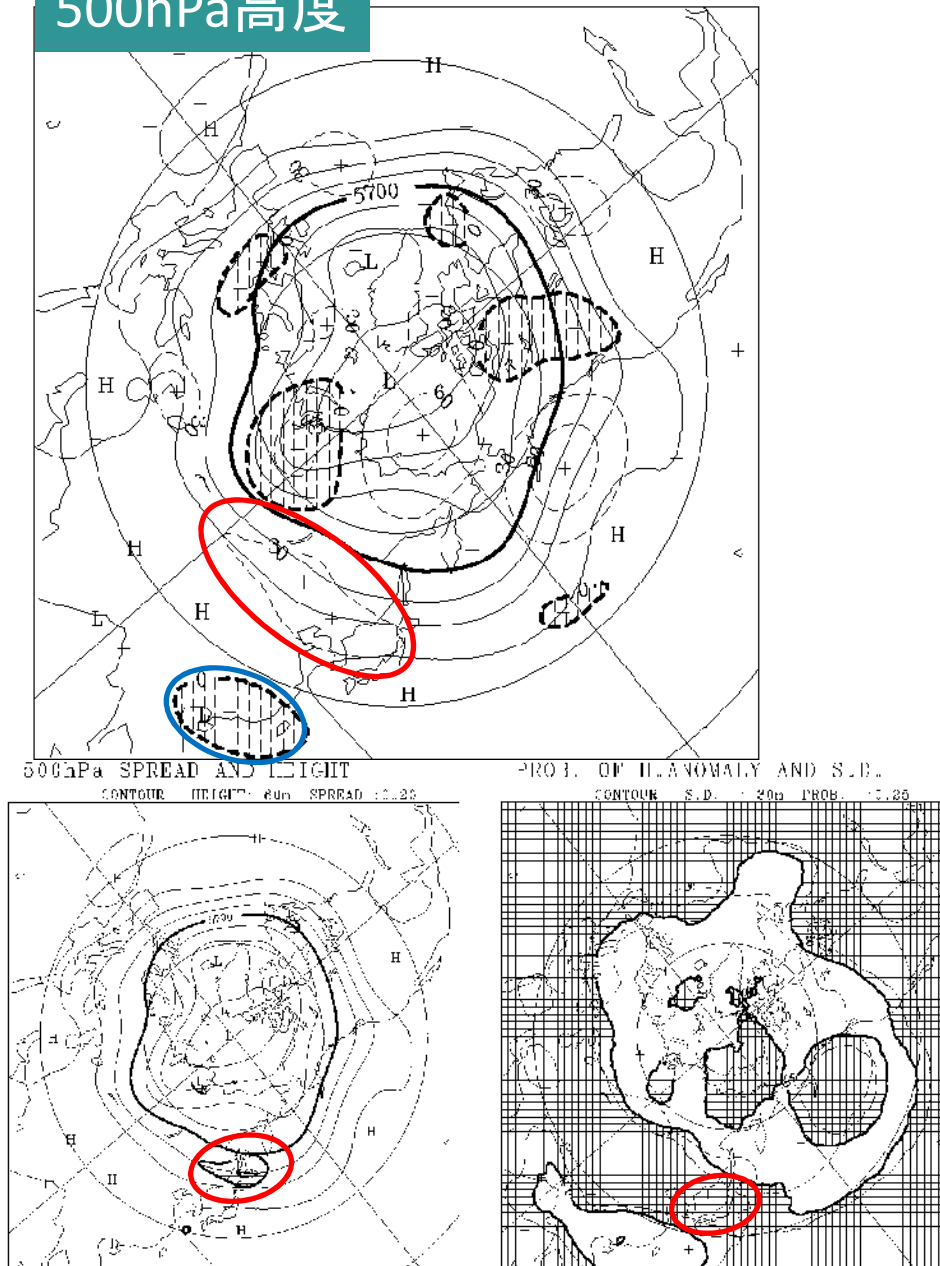
850hPa流線関数



熱帯の対流活動に対応して、華南付近を中心に低気圧性循環偏差。本州付近は高気圧性循環偏差。

予報資料の解釈 1か月(7/19~8/15)

500hPa高度

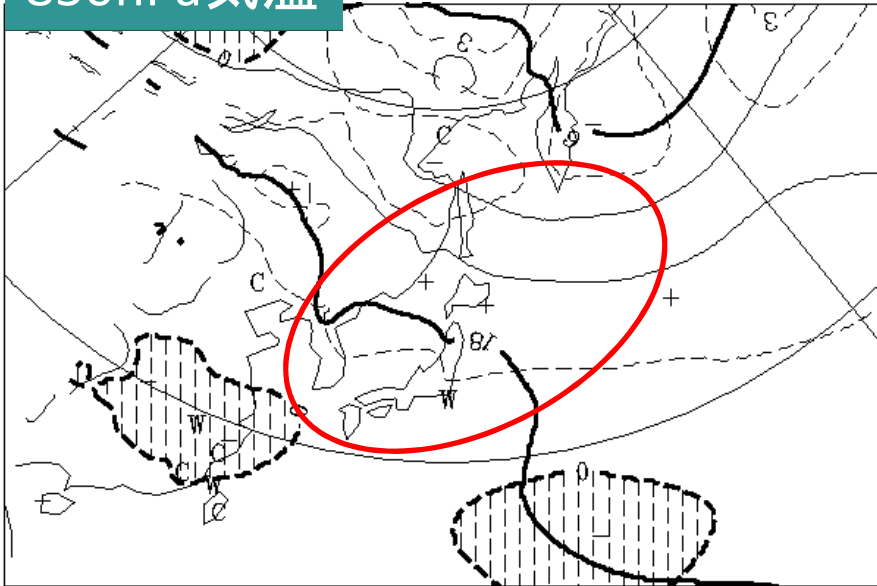


北半球中緯度帯のほぼ全域で正偏差で、ユーラシア大陸から本州付近は偏差が大きい。一方、華南付近は負偏差。

北・東・西日本は正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。日本の北にスプレッドが大きい領域が見られ、寒帯前線ジェット気流および亜熱帯ジェット気流に沿ったロスビー波東伝播の予測の不確実性を示唆。

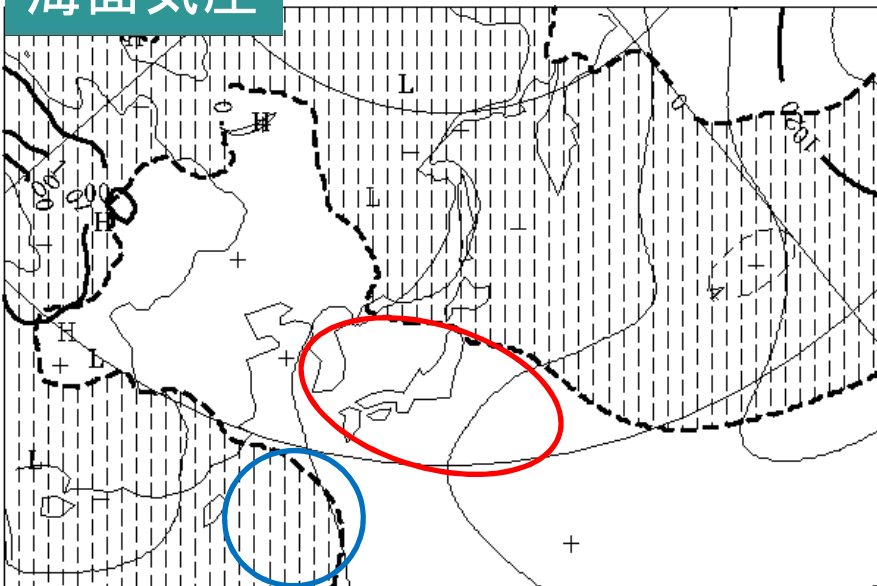
予報資料の解釈 1か月(7/19~8/15)

850hPa気温



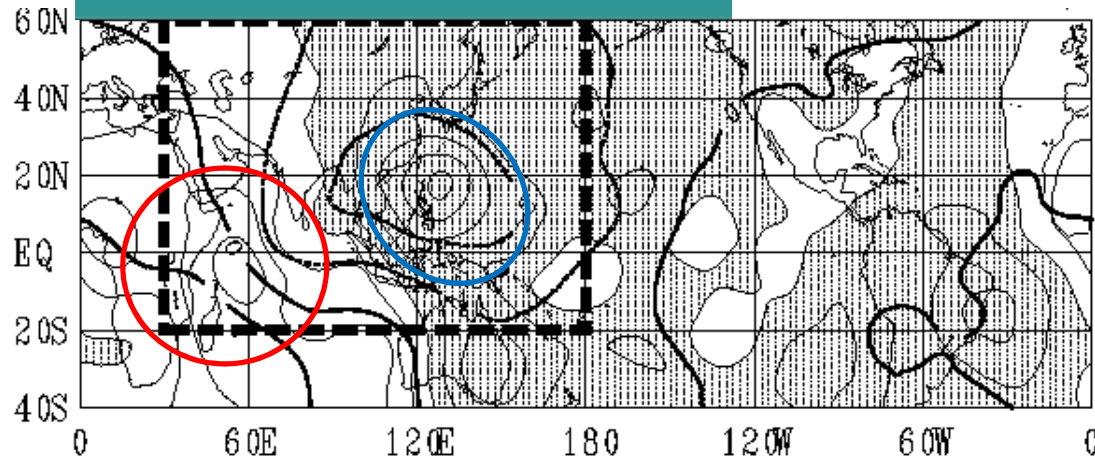
日本付近は北日本を中心に正偏差。

海面気圧



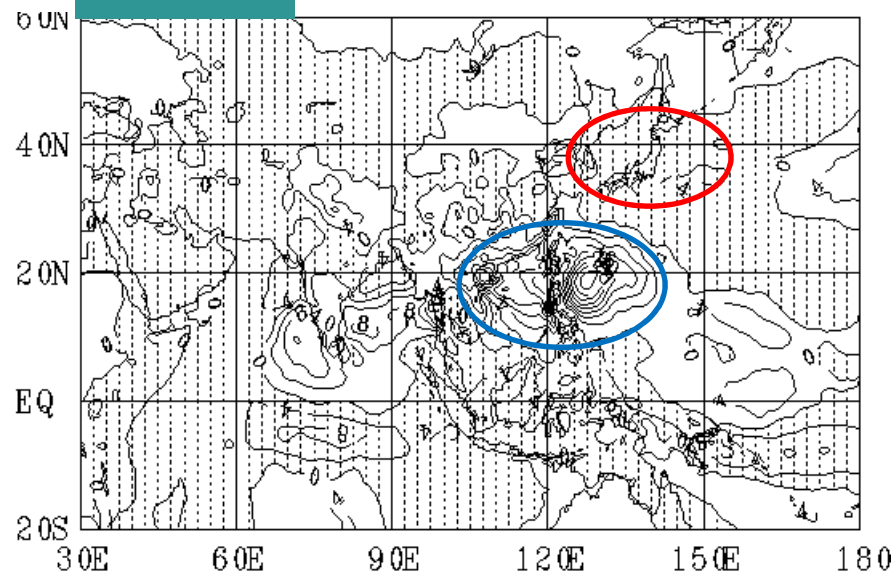
本州付近は正偏差で、太平洋高気圧の張り出しが強い。一方、東シナ海付近では負偏差で、沖縄・奄美では湿った空気の影響を受けやすい時期がある。

200hPa速度ポテンシャル



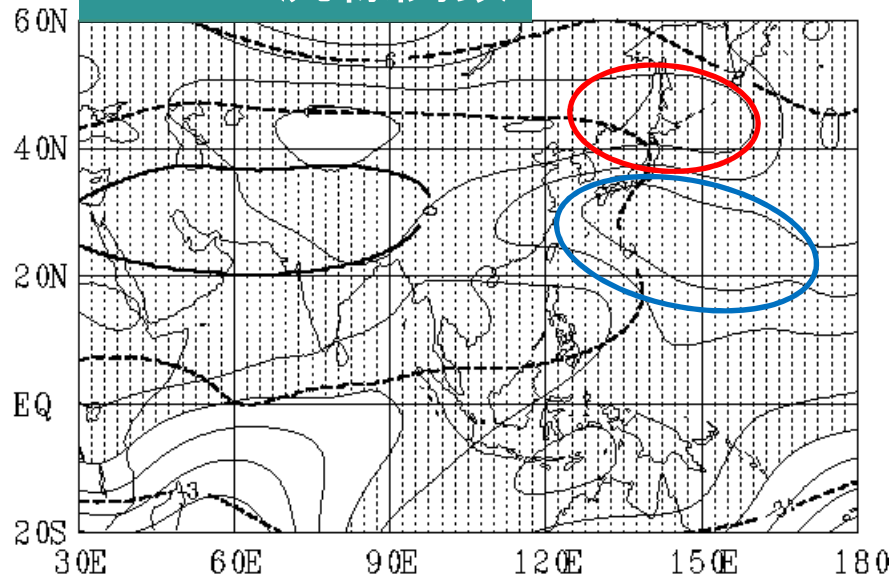
フィリピンの東を中心に上層
発散偏差が強い。一方、イン
ド洋西部は上層収束偏差。

降水量



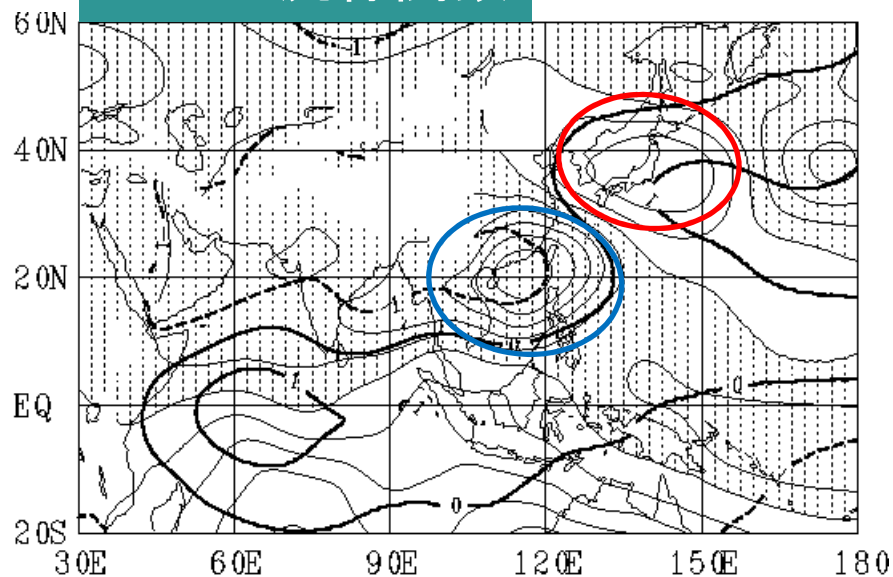
南シナ海からフィリピンの東
で多雨偏差。北・東・西日本
は少雨偏差。

200hPa流線関数



日本の南で低気圧性循環偏差、
北日本付近は相対的な高気圧
性循環偏差。

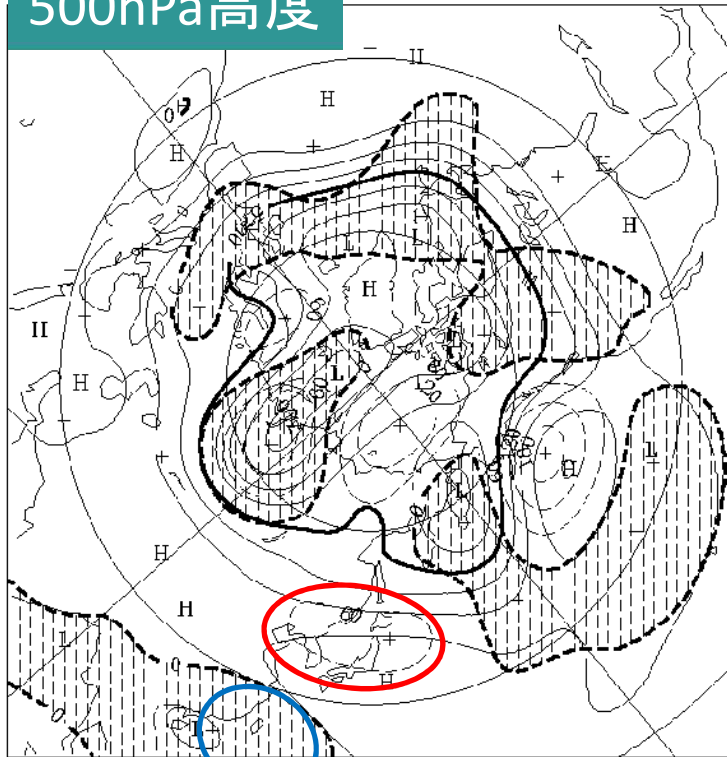
850hPa流線関数



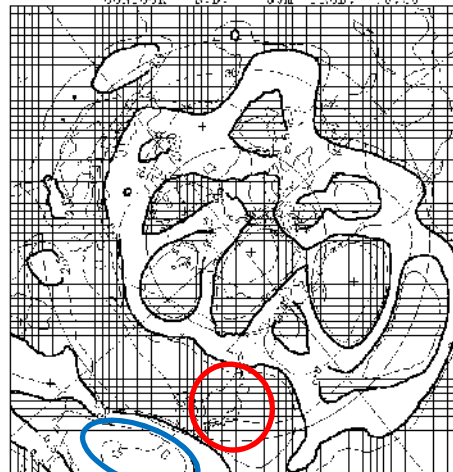
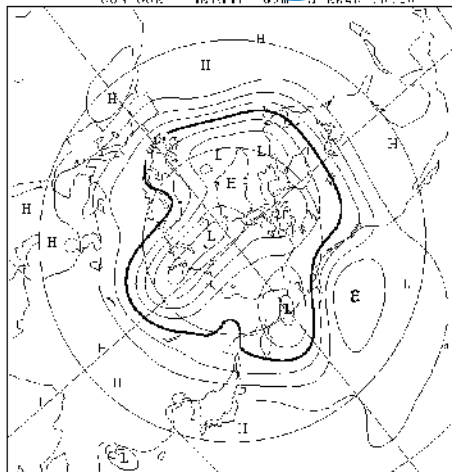
対流活動に対応して、南シナ
海で低気圧性循環偏差が強く、
本州付近は高気圧性循環偏
差。典型的な太平洋－日本
(PJ)パターンとなる。

予報資料の解釈 1週目(7/19~7/25)

500hPa高度



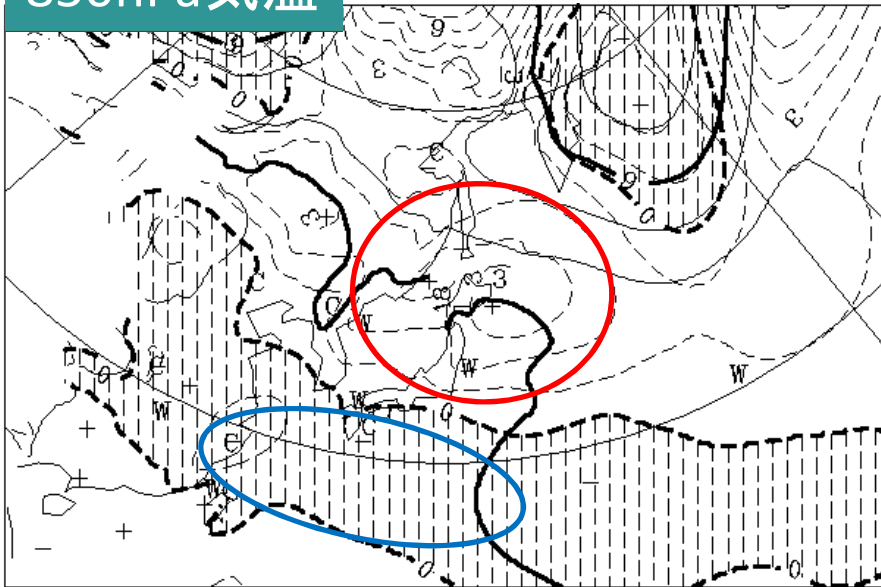
北日本付近を中心に正偏差。一方、東シナ海付近は負偏差。



北・東・西日本は正の高偏差確率75%以上の領域に覆われる。一方、沖縄付近は負の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

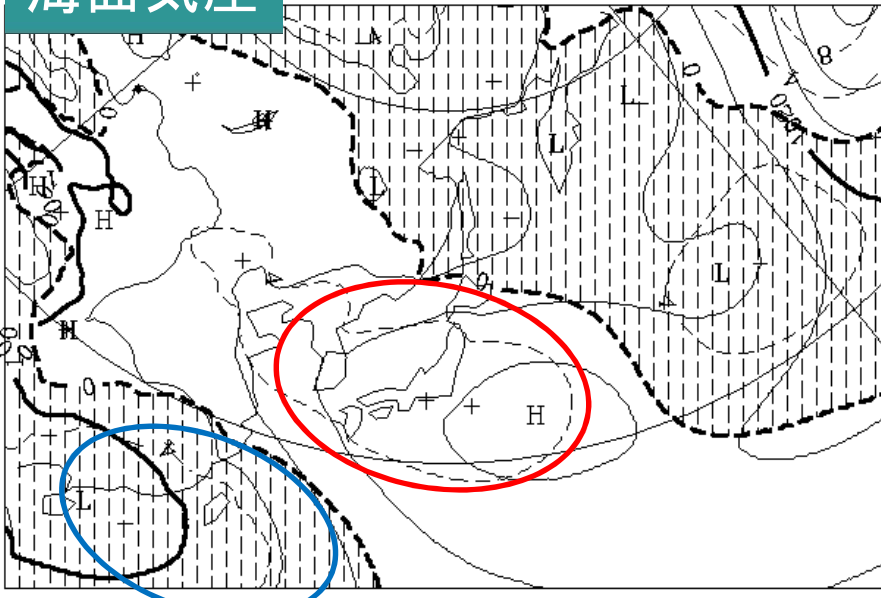
予報資料の解釈 1週目(7/19~7/25)

850hPa気温



日本付近は、北日本中心に正偏差。一方、東シナ海から日本の南は負偏差。

海面気圧



本州付近は正偏差で、北・東・西日本は太平洋高気圧に覆われやすいが、北日本日本海側は高気圧の縁を回る湿った空気の影響を受ける時期がある。一方、南シナ海を中心に負偏差で、沖縄・奄美は熱帯じょう乱や湿った空気の影響を受けやすい。

想定される天候

- 北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- 東・西日本では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- 沖縄・奄美では、熱帯じょう乱や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

<気温>

暖かい空気に覆われやすいため、北・東日本はかなりの高温で、西日本もかなり高い所がある。

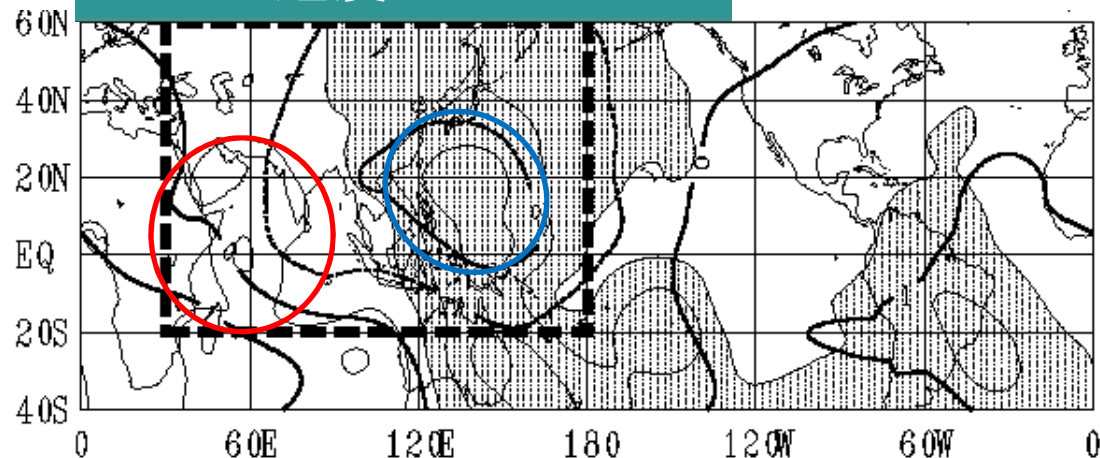
沖縄・奄美は、湿った空気の影響を受けやすいため、かなりの低温。

<天候>

北・東・西日本では、太平洋高気圧に覆われやすい。ただし、北日本日本海側は湿った空気の影響を受ける時期があるため、並雨。

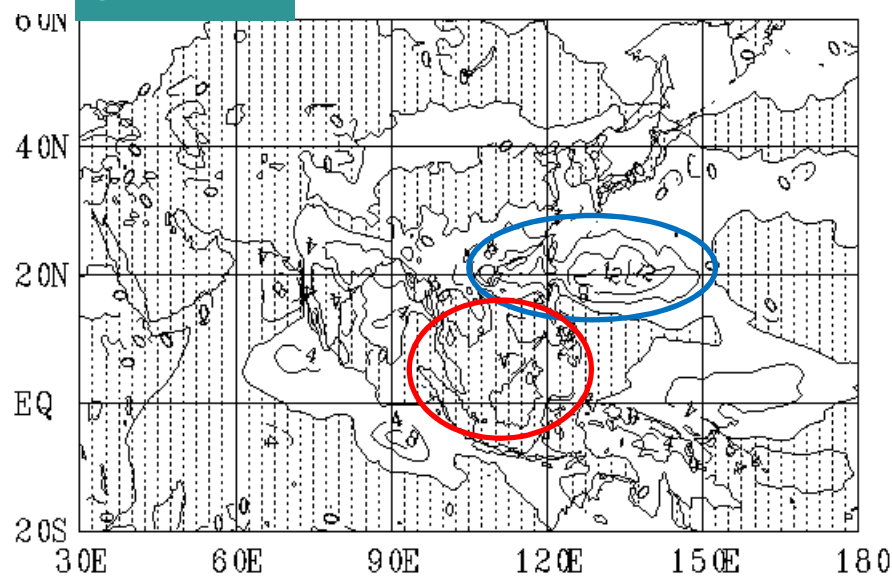
沖縄・奄美では、熱帯じょう乱や湿った空気の影響を受けやすい。

200hPa速度ポテンシャル



フィリピンの東で上層発散偏差。一方、インド洋西部は上層収束偏差。

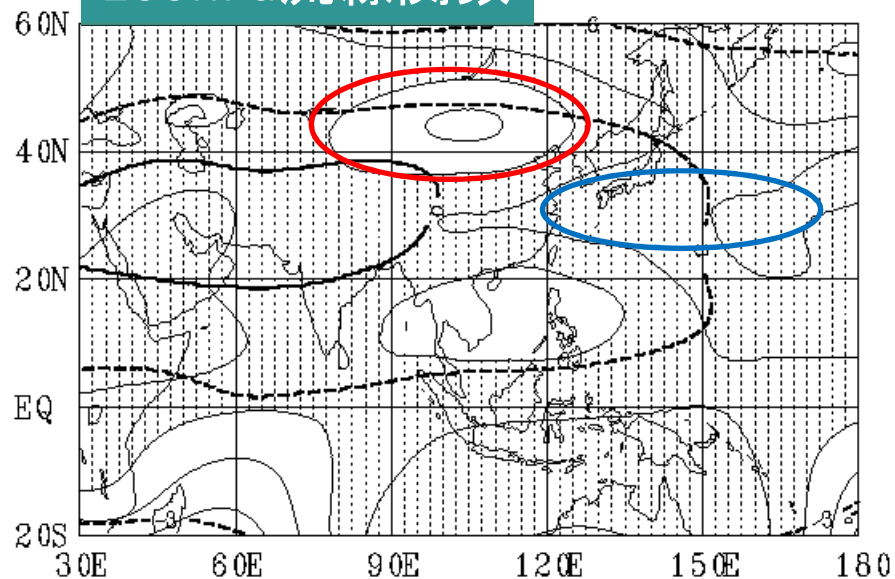
降水量



華南付近からフィリピンの東の北緯20度帯で多雨偏差。インドネシア付近で少雨偏差。

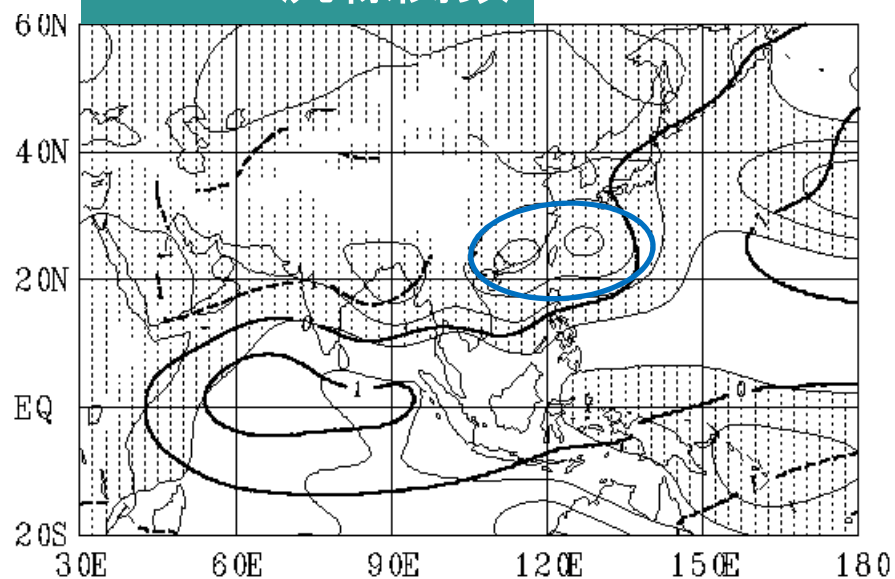
予報資料の解釈 2週目(7/26~8/1)

200hPa流線関数



モンゴル付近を中心に東西に
広く高気圧性循環偏差。日本
の南は低気圧性循環偏差。対
応して、亜熱帯ジェット気流は
アジアから日本付近にかけて
北偏して流れる。

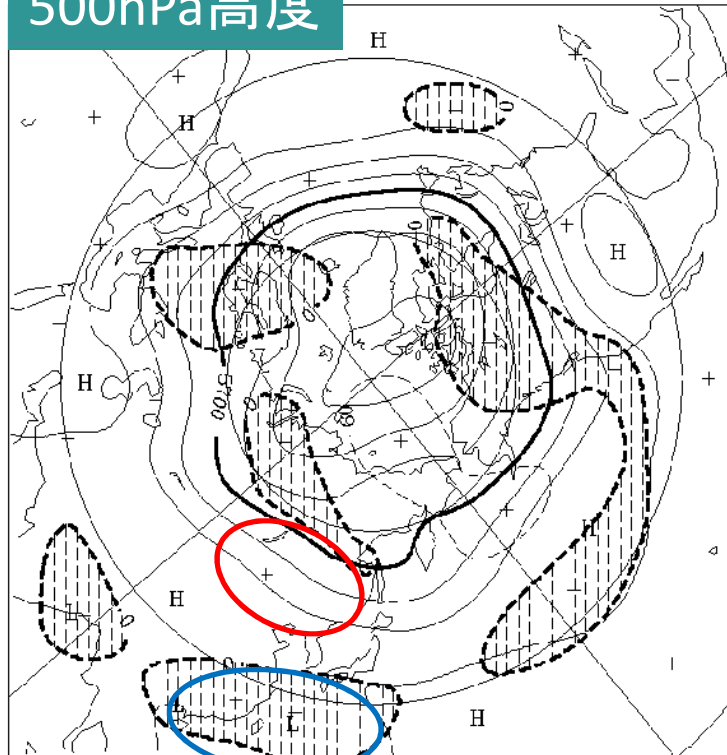
850hPa流線関数



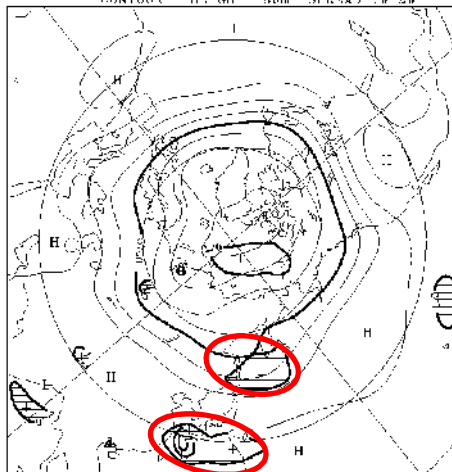
華南から沖縄付近で低気圧性
循環偏差。

予報資料の解釈 2週目(7/26~8/1)

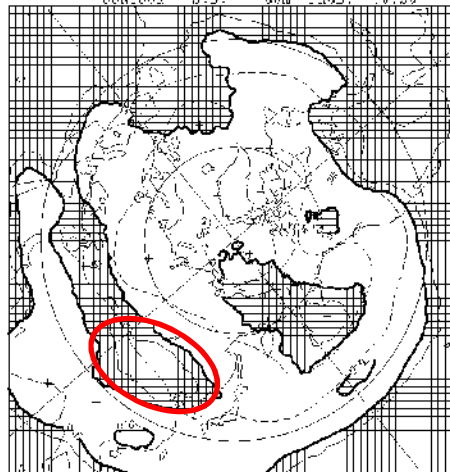
500hPa高度



500hPa SPREAD AND HEIGHT
CONTOUR: 100m 80m SPREAD: 0.20



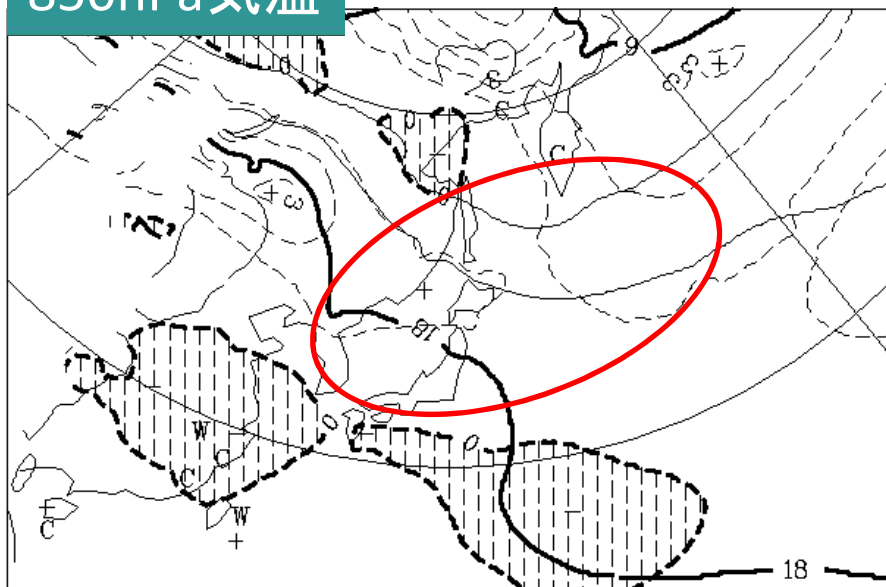
PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.



北半球中緯度帯のほぼ全域で正偏差で、バイカル湖の東から中国東北区付近にかけて偏差が大きい。一方、華南から日本の南は負偏差。

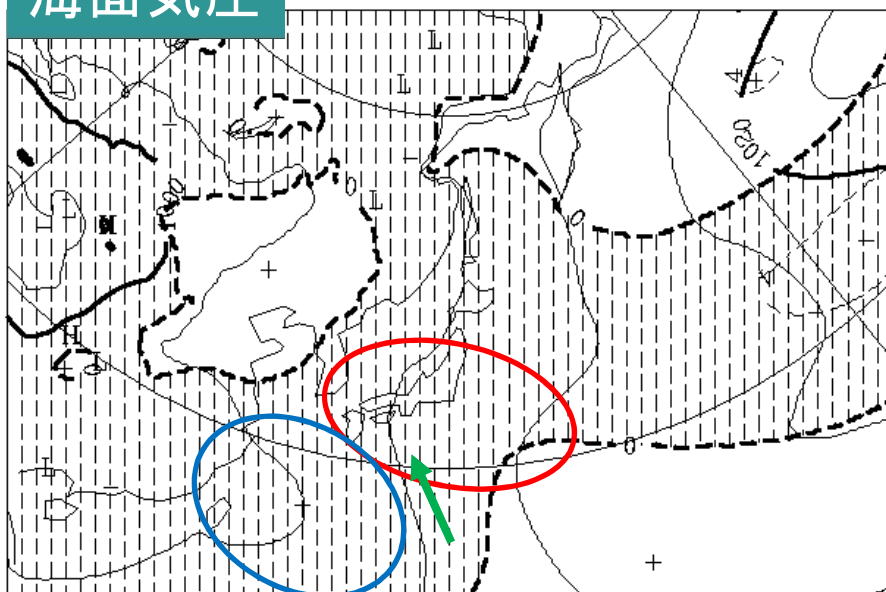
東シナ海から日本の南にかけてスプレッドが大きく、熱帯じょう乱の予測の不確実性を示唆。また、日本の北でもスプレッドが大きく、寒帯前線ジェット気流および亜熱帯ジェット気流に沿ったロスビー波東伝播の予測の不確実性を示唆。

850hPa気温



日本付近は、北日本中心に正偏差の所が多い。

海面気圧



東シナ海付近を中心に負偏差で、沖縄・奄美は湿った空気の影響を受けやすい。一方、本州付近では負偏差が小さく、太平洋高気圧が張り出しやすいが、東・西日本太平洋側を中心に、南東からの湿った空気の影響を受ける時期もある。

想定される天候

- 北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- 東日本日本海側では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- 東日本太平洋側と西日本では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- 沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

<気温>

暖かい空気に覆われやすいため、北・東日本は高温で、北日本はかなりの高温。西日本は高温傾向。

沖縄・奄美は、湿った空気の影響を受けやすいため、低温傾向。

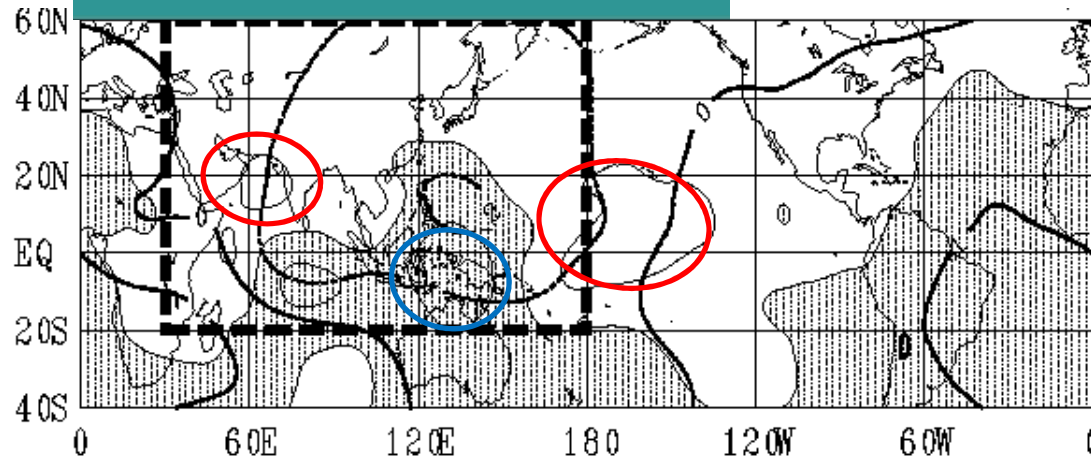
<天候>

北日本と東日本日本海側では、太平洋高気圧に覆われやすいが、湿った空気の影響を受ける時期もあるため、並雨。

東日本太平洋側と西日本では、太平洋高気圧に覆われやすいが、湿った空気の影響も受けるため、平年と同様。

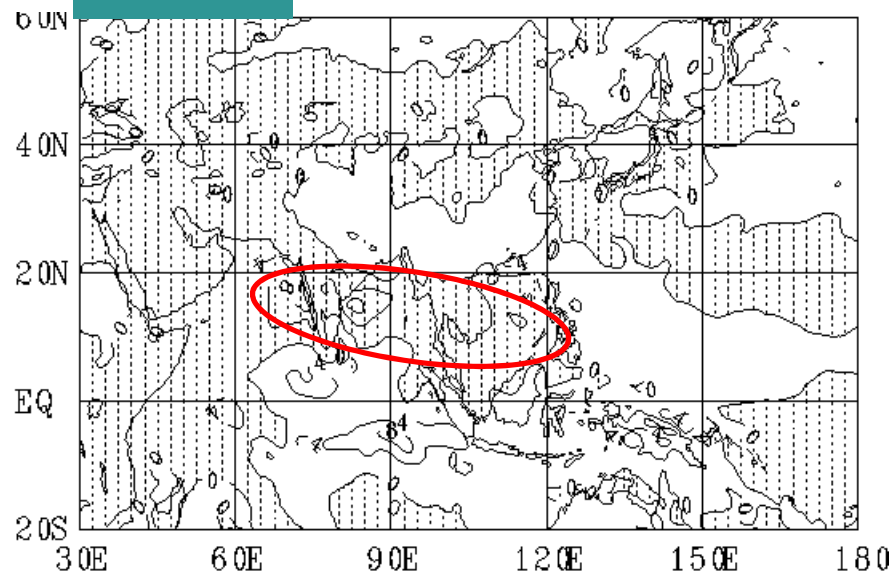
沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすい。

200hPa速度ポテンシャル



アラビア海付近と太平洋熱帯域の中部で上層収束偏差。
インドネシア付近で上層発散偏差。

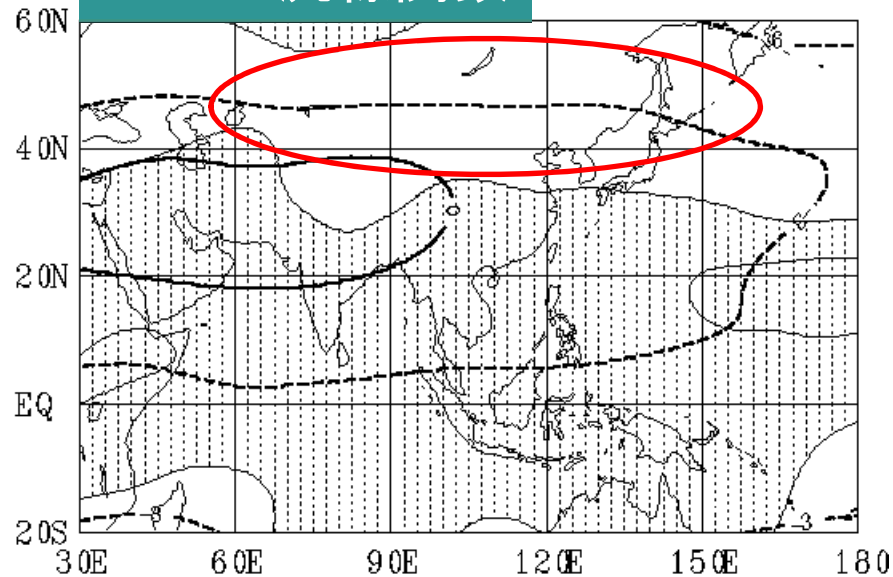
降水量



インド付近から南シナ海にかけて少雨偏差。

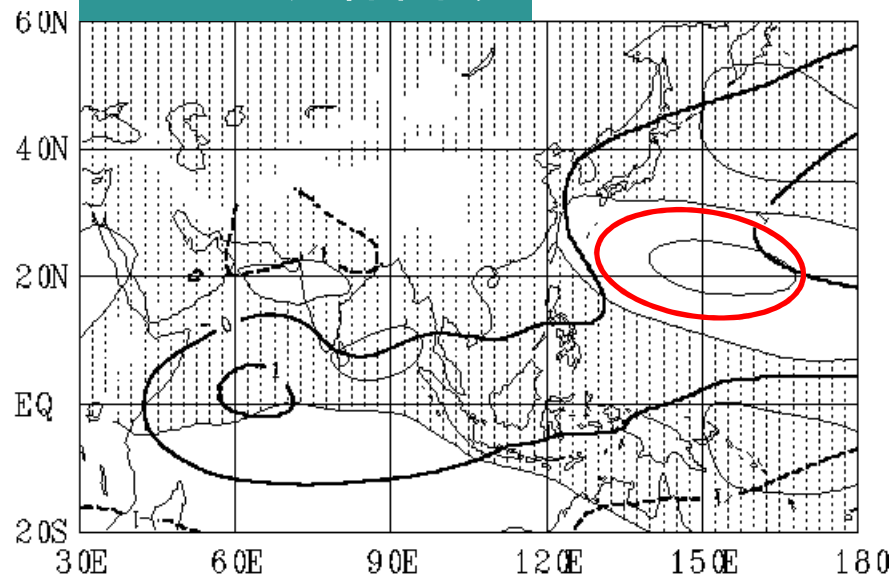
予報資料の解釈 3～4週目(8/2～8/15)

200hPa流線関数



ユーラシア大陸から日本付近にかけての中緯度帯で広く高気圧性循環偏差。対応して、亜熱帯ジェット気流はアジアから日本付近にかけて北偏して流れる。

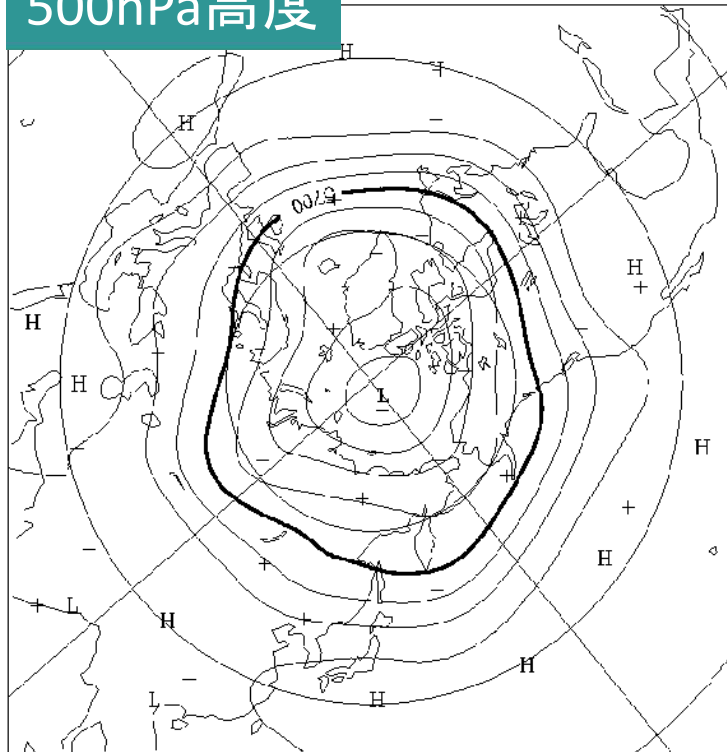
850hPa流線関数



日本の南で高気圧性循環偏差。

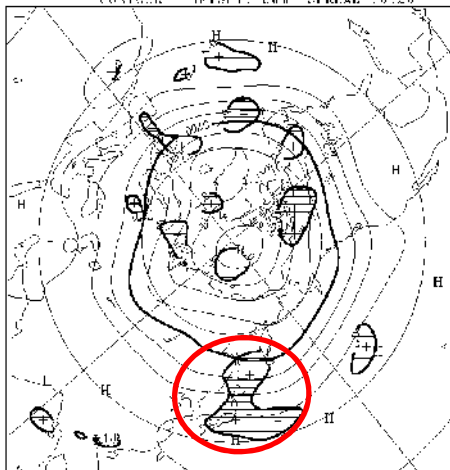
予報資料の解釈 3～4週目(8/2～8/15)

500hPa高度



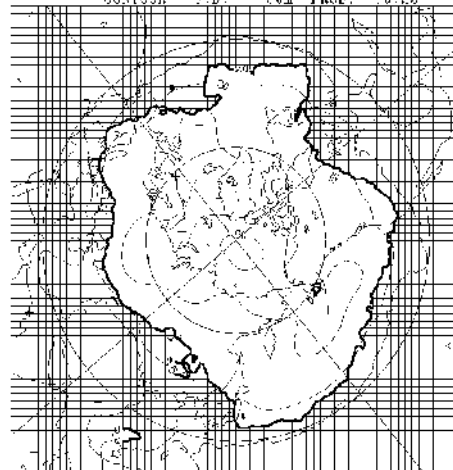
500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20



PROB. OF 1. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25

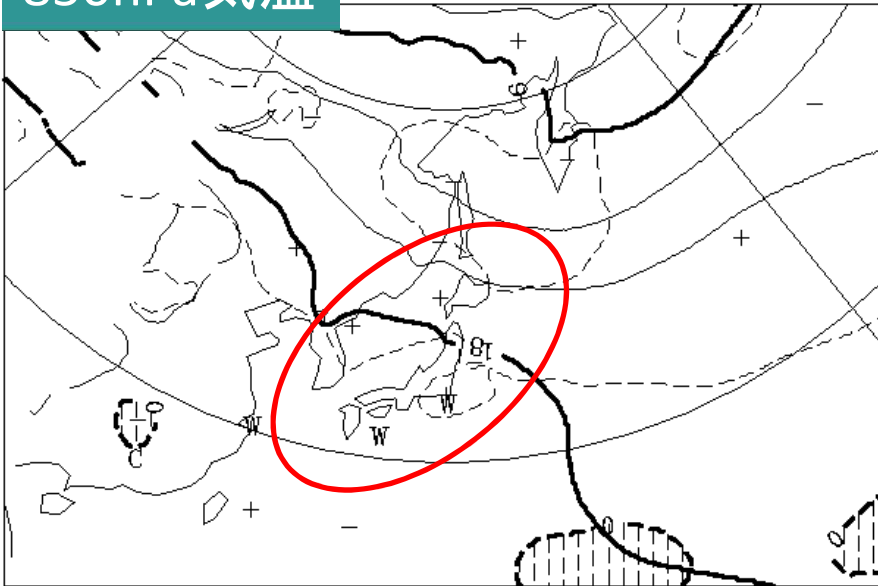


北半球中緯度帯の全域で正偏差。

日本付近でスプレッドが大きく、寒帯前線ジェット気流および亜熱帯ジェット気流に沿ったロスビー波束伝播や熱帯じょう乱などの予測の不確実性を示唆。

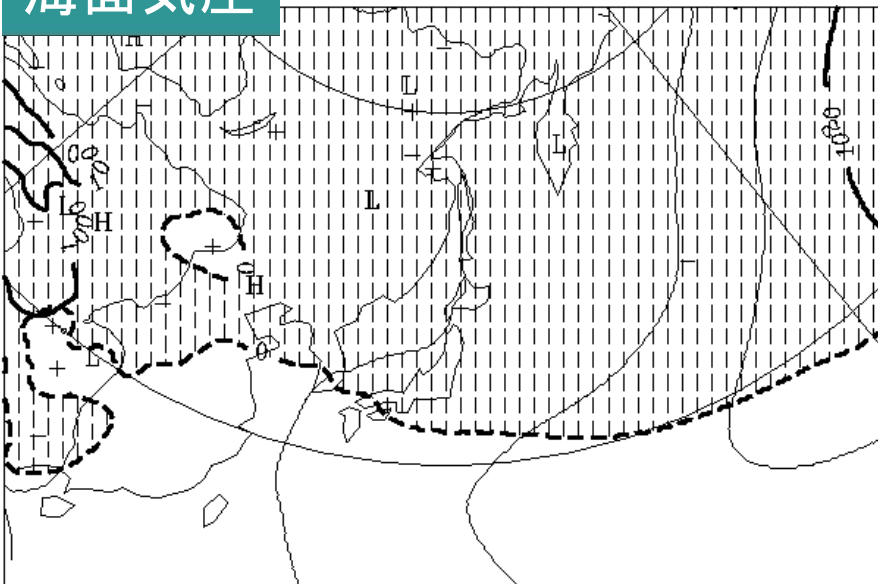
予報資料の解釈 3～4週目(8/2～8/15)

850hPa気温



日本付近は正偏差。

海面気圧



日本付近の偏差は小さい。

想定される天候

- ・ 北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<気温>

暖かい空気に覆われやすいため、北・東・西日本は高温。
沖縄・奄美はほぼ平年並。

<天候>

全国的に、平年と同様。

気象庁
Japan Meteorological Agency

